

今月の富士

(5月27日撮影)



中園孝信 (撮影)

小学5年生の少年が毎週土曜日に蒸気機関車の掃除をしていた。今春、高校を卒業して鉄道会社に就職する。少年の8年間の努力によって機関車はすばらしくきれいになった。考えてみると機関車が少年をたくましい青年に育てたように見える。市長から感謝状をもらい市民から祝福された青年は新しい道へ出発した。機関車が公園に置かれている目的はわからない。公園の機関車は今日も子どもたちに囲まれている。富士はそれを静かに見下ろしている。

今月の詩

ゆあさとしお (選・文)

「スタンド・バイ・ミー」は1986年に、ロブ・ライナーによって映画化された。たしか日比谷の映画館で見た記憶がある。エンディングが流れてもなかなか席を立てなかった。泣き顔を人目に晒したくなかったからだ。

映画は12歳の4人の子どもたちのひと夏の冒険を描いた物語である。舞台は1950年代末のアメリカの小さな町。それぞれ心に傷を持つ4人の少年たちが「死体探しの旅」に出る。エンディングのタイトルロールにベン・E・キングの名曲、「スタンド・バイ・ミー」が使われている。

子どもの頃、仲良かった遊び友達の思い出。私には小学校入学前、毎日のように遊んでいた朝鮮籍のキムくんという友人がいた。だが、入学してからはなぜか彼と遊ばなくなった(その意味がわかったのは、ずっと後のことだ)。小二の頃、毎日遊んだコバヤシくんという友人。彼は小三になる頃には父親の都合で、九州に引っ越していった。小五の頃、自転車に乗って親の目の届かぬ遠くまで冒険したタニグチくんという友人。中学に入る頃には二人は別の道を歩いていた。

彼らと過ごした屈託のない黄金の時間と喪失。彼らは、いまだどこで、何をしているのだろうか。スタンド・バイ・ミーを聴くとそんな思いが胸を過ぎる。

※スティーブン・キング (1947～) アメリカのモダンホラーの旗手。「スタンド・バイ・ミー」は彼が初めて書いた自伝的なホラー小説。映画化されて大ヒットした。

スタンド・バイ・ミー

スティーブン・キング

夜の闇があたりを包み、
月明かりが見えなくとも、
ぼくは怖くない、怖くはないさ。
君がそばにいてくれるなら、
友よ、友よ、
いつも君がそばにいておくれ。
いつもぼくのそばに。

見上げる空が落ちてしまい、
山が崩れ、海に沈んでも、
ぼくは泣かない、涙なんて流さない。
君がそばにいてくれるなら、
友よ、友よ、
いつも君がそばにいておくれ。
いつもぼくのそばに。

「保護司」の日々

市原 潤（保護司・元長野県上田東高等学校長）

1 保護観察と保護司の制度と現状について

保護司の役割は更生保護法に「保護観察官で十分でないところを補い、……地方委員会又は保護観察所の所掌事務に従事する」と定められています。

長野保護観察所は関東地方厚生保護委員会の下にあり、保護司は県内 19 の保護区に所属して観察所の保護観察官の下で活動しています。平成 30 年 9 月の県内保護司は 962 名、私の所属する保護区は 73 名（定数及び充足率は、1015 名（94.8%）、78 名（93.6%）、うち女性比率は 25.6%、30.1%）、保護区の定数は中学校区ごとに割振られ、保護司は通常その居住する中学校区の該当者を担当することになります。

保護観察の対象者は、下のように 1 号から 4 号までの 4 つに分類されています。1 号と 4 号は裁判所の、2 号と 3 号は地方更生保護委員会の決定によって決まります。

保護司の側からすると保護観察は、観察所の観察官から該当者の連絡を受けるところから始まるのですが、該当者の側からすると、1 号と 4 号の場合は、裁判での審判・判決→駐在保護司1→保護観察官→担当保護司という流れで、2 号と 3 号の場合は、期間中の環境調整（本人や身元引受人と保護司との面接など）→仮釈放・仮退院→帰住→担当保護司2・観察所出頭、という流れで進みます。

保護観察の種類別対象者数(平成31年1月)	前月の繰越し	保護観察の開始等			保護観察の終了等			月末現在 保護観察中	長野平成 30年10月	長野平成30年 10月環境調整
		総数	開始	移送	総数	終了	移送			
総数	29,021	2,563	2,448	113	2,857	2,741	116	28,727	282	在監427
1号観察	11,647	1,008	976	32	1,166	1,134	32	11,489	70	少年13
2号観察	2,736	200	183	17	225	207	18	2,711	10	計440
3号観察	4,731	960	939	21	1,124	1,103	21	4,567	45	
4号観察	9,907	395	350	45	342	297	45	9,960	155	
関東地方厚生委員会管内	11,278	924	874	50	999	950	49	11,203		
長野保護観察所	307	22	22		27	24	3	302		
保護観察の種類										
1号観察 家庭裁判所において決定される、保護処分としての保護観察										
2号観察 少年院を仮退院した後、収容期間の満了日まで、または本退院までの期間受ける保護観察										
3号観察 刑務所などの刑事施設を仮釈放（かつては「仮出獄」との用語が使用されていた）中に受ける保護観察										
4号観察 保護観察付きの刑執行猶予判決を受けた者が、執行猶予期間中に受ける保護観察										

保護司としての具体的な活動は、担当の保護観察対象者との月に 2 回程度の面接に加えて（必要に応じて家族やその他関係者とも）、居住地区の保護司との情報交換³、年に数回の地区保護司研修会、刑務所・少年院等の視察研修、その他地区保護司会に設けられた各種担当部会での研修や活動等々があります。また、保護観察中に社会体験やボランティア活動が義務付けられるケースもあるので、その際には担当保護司も参加して活動することになります。

保護観察付執行猶予や仮釈放・仮退院の判断は本人の更生の可能性を認めたものですが、その可能性の幾分かは、逮捕・取調べ、勾留の過酷さにあることも否定できないところです。しかし、更生のためには単に外的な強制力や社会関係からの排除の恐れや不安ではなく、犯罪に向かってしまった自分の心性の核を見出し改めることこそが易しくはないけれども、本人にとっても最も重要なことと思われれます。

1 実刑の場合はそのまま施設収容となるが、保護観察の付く場合には、裁判所に待機する保護司（駐在保護司）が、審判や判決後に保護観察について詳しく説明し、保護観察所への出頭に始まる保護観察のスムーズな進展を図る。

2 環境調整を行った保護司が担当となることが多い。

3 少年事件の場合など、同事件で同時に複数の該当者がいるケースがある

2 事例1 統合失調症の40代男性

以前、人権相談の電話を受けていたときに、40代の男性からの相談がありました。何回か話を聞いているうちにわかったのですが、犯罪に巻き込まれもせず、ひどく騙されたりもせず、自ら悪事に手を染めることもなく、事故も起こさず、よく無事にこれまで生活できたものだと感じさせるような経歴の持ち主でした。

もの心ついたときには、父親の母親に対するDVがひどかった。ただ、DVという言葉を知って、それがDVだとわかったのは、40代になって、偶々ポスターをみて、本を読んでからだった。小学生の頃、父親は飲んで家に帰ると母親を坐らせて延々と説教を続ける、本人は父親の怒声と母親の気配を襖の向こうに感じながら、耳を塞いでいる、それでも母親のことが心配で聞き耳を立てている。何かあれば自分が出て行って母親を助けなければいけないと神経をはりつめていた。安心して眠れる夜はなかった。物音がつねに気になって、その後もずっと今に至るまで熟睡できたことはない。

教室にいても、声や音が耳に響いて、授業には全く集中できない。いつごろからか、自分の頭の中に声が聞こえるようになった、彼はそれを「もう一人の自分」、「悪魔」の声などと呼んで、親戚や知人のいる席で話をしたこともあったが、相手にされないどころか、むしろからかわれることさえあったという。もちろん学校では誰にもそういうことは話せない。授業は上の空で理解も遅い少年を心配した学校は、専門機関の受診を勧め、「特殊学級」へ移るよう勧めたが、父親は、一度は受診させたものの、「特殊学級」は断った。

結局、彼は、授業はほとんど理解できないまま、小学校から中学・高校を卒業して就職しました。運転免許は辛うじて取ることができ、2トントラックを運転し配達する仕事に就いたそうです。配達場所やルートはいつも同じだったので、親切な先輩に教えてもらって、それだけ覚えて何とか続けることができた。ただ地図が読めないのも、免許証は持ち続けているものの、その仕事以外では、またその後も車の運転は一切していない、ということでした。

その後、職場をいくつか移り、騙されて「飯場」のようなところに放り込まれたこともあったそうですが、結局母親のことが心配で実家に戻った。しかしDVの状況は変わらず、母親は亡くなり、その後、兄が手配して父親も施設に入所することになった。ときには父親や兄に対して怒りのあまり手を挙げたくなる気持ちもあり、このままだと人を殺してしまいそうだといい、警察に飛び込んだこともあったそうです。自分にも暴力をふるった父親を憎み、許せないと思っていたが、やがて父親もそれなりに家族のことを思い家族へのサービス精神もあった、と思うようになった。しかし、兄については、その病気（脳腫瘍の手術とその予後）を心配するものの、母親の死の責任は兄と父親にあるとして許せない気持ちでいる。

兄は大学まで出してもらって、地元企業に就職したがリストラにあって、その後は全く仕事はしていない。子どもの頃から別棟を与えられて、ほとんど一人でいたので家事も全くできない、ゴミを捨てることさえできず、今も物が散乱し積み重なった部屋で生活している。

弟は。分数も少数も割合も分からず、釣銭の計算もできない、買物はいつも1000円札をもって同じスーパーで同じものを買う。スマホは自分には使えないといって携帯の通販を利用して物を買う。自分で相談電話を探し、訪ねることも出来る。保健師に強く勧められて、40代になってから受けた専門機関でのWISC検査の結果は64だったが、医師は、結果を見ながら本人には、こんなものは・・・といったそうです。それでも、小学校の頃の受診票が残っており、医師は診断書も書いてくれて、障害年金の受給が可能になったのは本人にとっては幸運なことでした。

DVにあいながらも母親は精一杯子どもを庇って育てた。母親の近くにいた彼は、米を洗って炊く、食後の食器を濯ぐ、スーパーで納豆を買う、ゴミを捨てる、等々の最低限の家事はでき、また他人の気持ちを押し量ることもできるようになった。余裕があつて食べたいときにはスーパーの売り場で頼んで、メロンを切り分けてもらって買うこともできる。弟は、兄とは違って、全く不十分でも生活の細部や他人の感情を気遣うことができる、と自分のことは思っている。しかし、兄は初対面の保健師に外食店の割引券を持っていくような非常識な人間だ、と、弟は兄を非難し、このままでは代々の一家が潰れてしまう、自分も大変だが、兄を何とかしてほしい、と思ひ訴えてきたのでした。

3 事例2 二人の若者と二つのコミック

保護観察での面接は、月に2回程度、毎回1時間ほどですが、回数を重ねていくと、それぞれの心のなかの芯のようなものにぶつかることがあります。



若者は本は読まないけれど、誰も知らないような地方のライブに出かけていきます。コミックもよく読んでいます。こちらが興味や関心をもって聞くと熱心に説明してくれます。その一つが『ナルト』、別の若者が教えてくれたのが『ベルセルク』でした。ナルトは主人公の名、ベルセルクは「狂戦士」？の意だそうで、主人公の名はガッツ。

上が『ナルト』1巻の冒頭のページ、下が『ベルセルク』1巻の68-69ページ。

忍者学校の劣等生ナルトのいたずらに、長老の火影はいつものように怒り、イルカ先生は授業に戻れと怒鳴る。同級生や周りの人物は、あきれながらも面白がっている。時代も場所も架空のもので、人物も行動も誇張されているけれど、私たちの現実と地

続きである。

下は『ベルセルク』の68-69ページ。最初からここまで読んでも、よくわからない。場所も時代も全くのフィクション。登場する人物？をはじめ生物？たちもフィクション。登場人物？も外見は人間だが中身は人間とは限らない。「人間風情」とか「片腹痛い」のセリフも出てくるが、言われているのは単なる人間ではない主人公のガッツである。主人公ガッツは左腕を失い、その部分は機銃？のようなものになっている、その技術は何か、誰がつくったのか？弾丸？の補填は？忍法小説の超人的技能と違って、劇画の細部にわたるリアルな写実表現には、つい野暮で余分な疑問も抱いてしまう。

5冊読んでもわからなかった、と次の面接のときに話すと、いろいろと説明してくれて、さらに『ワンピース』と『進撃の巨人』を教えてくれた。1・2巻を読むと『ワンピース』は『ナルト』と同様の少年の成長物語。『進撃の巨人』は『ベルセルク』と同様の人間以外の生物が登場する仮構の世界の仮構の物語である。抽象性の高い内容だが、随所に今風の若者に独特のセリフや態度、物腰が描かれ、家族や男女関係また社会関係を表現する言葉も感情も極めて一般的。そこだけが今の私たちの現実と地続きであるように思える。しかし、それは著者の読者サービスのようなもので、むしろ逆に、私たちの人間性は物語の背景にすぎず、主人公とその世界を浮き立たせるための文字通りの虚構になってしまっているように見える。主人公とその敵以外の存在である普通の人間は背景に過ぎず、現実の世界では起こり得ないことがいとも簡単に当然のように起こる。著者は大きな世界の構築には熱心だが、その細部には関心がないかのように、細部を消去することによって大きな物語は進んでいく。



しかし、私たちの生活は「細部」の積み重ねだ。

「一方的に……を募らせ……」という表現があるが、それは相手の表現としてのしぐさや感情その他さまざまな具体的なものごとの細部がみえていない、ということの結果にほかならないだろう。

私の知人の3歳の孫娘の母親が「お母さんにまた怒られちゃった」といったら、孫娘は、即座に「ちがうよ、ばあばは怒ってるんじゃないくて、面倒くさいと思ってるだけだよ」、と母親に言ったそうです。

『ベルセルク』の好きな若者は、感情の細部は苦手かもしれないが、ある社会体験活動では、他の保護司たちも感心するような仕事ができる。そこでは、「細部」がきつとみえていたに違いありません。本人は、あまり自覚的ではなかったのですが。

保護観察の実際のやりかたは、個々に違いますが、面接の対話はそれぞれの固定的な世界を広げるよい機会にもなっているのではないかと思います。

4 結びにかえて ソクラテスの「助産術」すなわち対話について

ハンナ・アレントは、ソクラテスの「助産術」は、人が自分のドクサ（偏見、意見）から始めて真理にいたる手助けをするための方法であり、その方法の根底には、ソクラテス自身に二重の確信があったと指摘している。（ハンナ・アレント『政治の約束』筑摩書房 43-45p）

「二重の確信」について、アレントは次のように書いている。

誰もが独自のドクサを持ち、世界に対する独自の開口部を持つということ。それゆえソクラテスはつねに質問から始めねばならないということ。なぜなら彼はあらかじめ相手がいかなる *dokei moi* を、すなわち「私にとってそう思われる事柄」を持っているのかを、知ることができないからである。……しかし誰も相手のドクサをあらかじめ知ることができないのとまったく同じように、誰も、独りでは、またなお一層の努力をしなければ、自分自身のドクサに内在する真実を知ることができないのだ。（同上）

誰でも「世界に対する独自の開口部を持つ」が、そこからみえてくる各人の「ドクサに内在する真実」を、独りでは知ることができない。そのためには徹底的な問答が必要だ。「開口部」が各人のもつ世界への一種の「構え」だとするならば、「構え」の内部にはその人の核心があるに違いない。それぞれのもつ「構え」とその内部の重層的構造は、問答する二人においてもある場合には重なり、またずれたりもするだろうが、徹底的な問答によってこそ、そこに潜む真実は明らかになるだろう、と。

では、この問答はどこで行われるか、先に引用した部分の前でアレントは次のように書いている。

私生活においては、人は隠され、登場することも輝くこともできない。その結果ドクサも形成されない。ソクラテスは公的な職も名誉も拒否したが、けっしてこの私生活に引退などしなかったし、それどころか、市場、すなわちドクサの渦中を歩き回ったのである。（同上）

「市場」は、「自分自身の正体を現したり、他の人々から見られたり聞かれたりし得る」ということを含意する自由な「公的生活」の場である。

ソクラテスの活動した古代ギリシアのポリスアテネにおいては、自由な市民は「市場」で活動した。この「市場」と対照的な存在としてアレントは「私生活」をあげているが、「個人的要素が消滅」する官僚制においても、また別の意味で「個」は消滅する。アレントは書いている。

官僚制は統治から個人的要素が消滅した統治形態である、……専制的な権力は……そもそも説明を与える必要のない支配、誰に対しても何らの責任を取る必要のない支配を意味していたが、官僚制（すなわち匿名的統治＝匿名（*nobody*）による統治・引用者註）においても、説明を求める多くの人々がいるのだが、誰も説明などしない。なぜなら匿名（*nobody*）に責任を帰することはできないからである。（同上 106-107p）

現代社会においては、その維持と運営のためには官僚制的な機構が不可欠だが、しかし、官僚制がすべての問題に対して解決をもたらすわけではない。個に対して個として向き合うべき機会を逸してはならないと思う。（了）

II 子どものこころ:Q&A

深谷和子（東京学大名誉教授）

背が高くてイヤです（小4女子）



私はクラスで2番目に背が高いです。1番目は男の子です。クラスの女子からは、「おっきくていいなあ!」「いつかぬかしたい!」といわれますが、男子からは「女のくせに」とか「ゴリラみたい」とか、いわれて、ほんとうにイヤなんです。小さくなるのはムリかもしれないけれど、これからもっと大きくなるかと思うと、本当にイヤでイヤでたまりません。どうしたらいいですか。

（ゆりか）



あなたは、クラスの男の子たちより背が高い自分がイヤなんだ。からだのことを言われるのは、本当に嫌（いや）な気持ちになるよね。

私も子どもの頃、ゆりかちゃんぐらいの頃は、クラスで一番背が高く、すごく嫌（いや）だったの。首も長かったの「キリンさん」とか言われて。「自分がもっと、小さくて可愛い（かわいい）子だったらよかったのに」と思ってたの。

ところが！中学生になる頃から、男子たちがみなどんどん背が伸びて、ぐんぐん大きくなっていったんだ。でも私の身長は、中学生の頃からほとんどそのまま。大学生になった時には、クラスで半分より少し前位だったかな。そして今は、後に生まれた人の方が（平均）身長が大きくなっているから、もしあなたのクラスに昔の私が入ったら、一番チビかもしれない。小学生の頃、一番大きい女子だった自分を、もっと楽しんでおけばよかったなあ。

でも男の子の4年生ぐらいは、同級生の女の子より精神的に子どもなの。「発達心理学」の教科書にはそう書いてあるわ。だから男の子たちは「ゴリラみたい」などと、あなたに悪口をいうのが楽しいのね。でも、「ゴリラで悪いか」「チビのくせに」「先生に言うよ」などと言いつつ、ますます嬉しがっちゃう。無視するに限ります。彼らもどんどん大人になっていくから、ほんのしばらくの辛抱。

もし、この先あなたの背がもっと伸びても、「大きくていいね！」と言ってくれるお友だちもいるし、世界で活躍しているきれいなモデルさんたちは、みな背が高いんだから、いいじゃないの。

そう思うと、背が高い自分のこと、ちょっぴり好きになってこない？

Ⅲ 新書版に見る「子ども問題」1

「大学全入時代は幸せをもたらすのか」吉川 徹 日本の分断（光文社新書、2019.4）
深谷昌志（東京成徳大学名誉教授）

○日本人を8類型に

「日本の分断」という書名を見た時、経済格差を扱った本かと思った。しかし、副題の「切り離される非大学若者たち」に惹かれて立ち読みしてみた。しかし、立ち読みでは内容をつかみにくいので、税込み928円を払って購入した。

著者の吉川徹は、日本社会学会が定期的実施しているSSM調査（社会階層や社会移動についての全国調査）の中核メンバーで、2015年にも「SSP2015」の研究代表を務めた計量社会学者だ。本書の骨格はその2015年調査の結果から構成されているが、正直に言って、理論派の著述だけに読みやすいとはいえない。しかし、内容も示唆に富み、重要な指摘も行っているため、吉川徹の問題提起を分かりやすく紹介したいと思った。

吉川は、基本的な属性に着目し、現在の日本人を、①年代（壮年・若年）と②性別（男女）に③学歴（大卒・非大卒）を組み合わせ、「壮年・男子・大学卒」、「壮年・男子・非大学卒」、そして、「若年・男子・大学卒」のような8タイプの人間像を設定する。なお、壮年は40～50歳代、若年は20～30歳代である。また、60歳以上の高齢者や20歳未満の子ども・若者は今回の主題からずれるので、調査対象から除外されている。

○非大学卒の哀歎

それでは、「①壮年・男子・大学卒」を基準に、「②若年・男子・大学卒」と「③若年・男子・非大学卒」との比較結果を紹介しよう。生活の基本となる収入を取り上げるなら、「①壮年・男子・大学卒」は年収659万円なのに対し、「②若年・男子・大学卒」は379万（壮年の57%）、「③若年・男子・非大学卒」は322万円（①の49%）だという。年功序列型の賃金体系のもとではほぼ妥当な数値であろう。ただ、「④若年・女子・非大学卒」の収入が140万（①の21%）にとどまるのが気にかかる（117ページ）。

なお、それぞれの月あたりの労働時間は「①壮年・男子・大学卒」が187時間、「②若年・男子・大学」は①より7時間長い194時間である。そして、「③若年・男子・非大学卒」は①の84%にあたる158時間で、労働時間に収入程の開きが認められない。収入差以上に若年層が働いている社会なのであろう。なお、「④若年・女子・非大学卒」は、主婦層のパート勤務が多いためか、月あたりの労働時間は140時間にとどまる（p121）。

また、各クラスターの中で、非正規労働者の占める割合は、「①壮年・男子・大学卒」が5.3%、「②若年・男子・大学卒」も9.2%だが、「③若年・男子・非大学卒」は14.0%、そして、「④若年・女子・非大学卒」では35.5%となる（p127）。大学を卒業していない（非大学卒）と、安定したフルタイムの仕事につきにくいのであろうか。そうした事情を反映してか、「②若年の大学卒・男子」で2回以上転職した割合は22.9%にとどまるが、「③若年の非大学卒・男子」は41.6%、女子は55.5%と、「非大学卒」の転職比率が高い（p134）。

○貧しさの再生産

数値の羅列で恐縮だが、著者は計量社会学者なので、信頼できる数値を適切に提示する所に特性がある。そこで、もう少し数値におつき合いを願うとして、職業に対する誇り（職業威信）は、「①壮年・男子・大学」が57.1%、「②若年・男子・大学卒」も55.3%、そして、「③若年・男子・非大学卒」48.6%、「④若年・女子・非大学卒」49.6%（p133）である。収入差と比べ、「仕事への誇り」は4者間に大きな開きが認められない。非大学卒の若年層が恵まれているといえない環境の中で、使命感を持ちながら働いている姿が浮かんでくる。

夜遅くファミレスやコンビニなどへ行くと、節度のある態度で接してくれる若い従業員に出会う。疲れているのに、そしてバイト代も高くはないのに、立派だなと感心するが、そうした若者が日本社会の土台を支えているのであろう。

なお、それぞれのタイプの既婚率を年収を含めて確かめると、「①壮年・男子・大学卒」は既婚率81.4%で既婚者の年収は706万円だという。そして、「②若年・男子・大学卒」の既婚率は51.0%で年収は538万円である。それに対し、「③若年・男子・非大学卒」の既婚率は62.7%で収入は402万円、「④若年・女子・非大学」は62.6%で206万円となる（p137～139）。非大学層の場合、低い収入の中での結婚生活という姿が浮かんでくる。

なお、カテゴリーごとに父親が大学卒の割合をたしかめると、「①壮年・男子・大学卒」は31.9%、「②若年・男子・大学卒」52.8%なのに対し、「③若年・男子・非大学卒」の父親の大学卒率は18.0%、「④若年・女子・非大学卒」も17.3%にとどまる（p147）。

この学歴と世代と関係は考えさせられる内容を含んでいる。というのは、高学歴の男性は高学歴の父を持ち、そして、その子も高学歴となる可能性が強い。それに対し、非高学歴の男性は非高学歴の父を持ち、その子も非高学歴となりがちなことを示唆している。つまり、高学歴層と非高学歴層とがそれぞれに世代間を輪廻のように繰り返す構図で、非学歴層についていうなら、この構図は貧困の再生産を意味する。

○内向き志向の「若者・男子・非大学卒」

こうした考察の後、吉川徹は8類型について「①壮年・男子・大学卒」は「20世紀型の勝ちパターン」、「②若年・男子・大学卒」は「絆の少ない自立層」のようなラベルを貼っている。そして、「③若年・男子・非大学卒」は「不利な環境、これから先の長い道のり」、さらに、「④若者・女子・非大学卒」を「不安定な足場、大切な役割」（p161）と要約する。

これ以上の詳しい説明は同書にゆずりたいが、8類型の日本人の内、「③若年・男子・非大学」は社会的な評価が低く、社会の中に埋没している。そして、彼ら自身も、「社会的活動については総じて活動頻度が低く、政治的な理解や関心は低く（中略）、海外旅行には目を向けない『内向き』志向が強く」（p206）の特性がみられると指摘している。

ここまで書いてきて、20年来通っている理容店の理容師を思い出した。彼は理容学校を卒業後、この店に来て17年、現在は雇われ店長をしている。彼の実家は仕出し屋で、高卒の奥さんの実家は大工、親類の中では、彼の兄が私立の教員養成系の私大を出て学習塾の講師をしている以外、大学卒はいない。小学2年と幼稚園の年長組の子がおり、休みの日には手製のおにぎり持参で市営の温水プールや上野動物園に行くなどコスパを考えた暮らしをしている。親子でコストコへ行く時も1万円札だけ持って店内に入り、スマホで計算しながら、子どものためのホットドッグ代を残すのに苦労するという。豊かでは

ないが、堅実な暮らしで、年に1回、親族会で1泊旅行をするのが彼の最大の楽しみらしい。そして、来年、下の子が小学校へ行ったら、奥さんがバイトに出るので収入が増える。そうなれば、2.3万円を持って一家でディズニーへ行き、楽しい時間を過ごせそうだと話していた。

店は大手町のビル街にあるので、お得意さんに企業や官庁のお偉いさんが多い。しかし、どんな偉い人も一人のお客という感じで、ごく普通に接している。そして、刈りたてでも刈りたてに見えず、1カ月後でも髪型が変わらない。そうした整髪の優れた技術を誇りにしているようで、ハサミ1丁あれば、どこでも生きていけると話している。そして、奥さんのバイト代を貯金して一家でUSJへ行くのが夢だとか。精神的にも安定していて、そうした彼と話していると、研究にあくせくしている自分が愚かに思えてくる。

○レッグスを認める社会を

もう一度、吉川本に戻るなら、「③若年・男子・非大学卒」は、少なくとも高校を卒業しているから、国際的なレベルでは低学歴ではない。そこで、この層を「レッグス」(LEGS。Light Education Guys)、つまり「軽学歴の男子」(p223)と名づけたらという。

そして、レッグスは、社会の中で建築や漁業、あるいは、長距離運転などの大事な働きをしている。しかし、彼らは報われることの少ない階層に属する。だとしたら、彼らが大学へ進学すればよいのか。大学全入運動が理想なのかという命題が浮かんでくるという。しかし、理容や調理の道に4大卒を求めるのは疑問が多い。というより、大卒でなくても仕事につけるし、技術を磨けば、豊かな人生を送れる。それだけに、レッグスをレッグスとして評価し、その活動に報いる社会の仕組み作りが課題になると吉川は提唱する。

吉川徹の「大学全入」への疑念に目を覚まされる思いがした。実際に長い間、大学の教員をしていて、学生は本当に力をつけたのかに疑問を抱いていた。学生に4年間のモラトリアム期間を与えただけという反省もある。それだけに、レッグスをレッグスのまま、自信を持たせるのにどうしたらよいかが重要になる。

レッグスたちは8類型の中で、「努力すること」の意味をもっとも信じている人たちだという(p254)。そうした資質を手がかりとするなら、改革はそれ程困難ではないようにも思う。彼らの技能を社会的に高く評価する仕組みを作ると同時に、学歴だけでなく、技術歴を賃金体系に導入することが肝要であろう。「隗より始めよ」ということで、次に床屋へ行く時、お子さん用のお土産でも用意して、彼に感謝の気持ちを伝えたいと思った。

蛇足を加えるなら、8類型の「若年・男子・大学卒」の中でも、「大学卒」が意味を持つのは伝統のある大学に入り、大手の企業に就職した若者の場合に限られる気がする。近年、大衆化した大学の中で怠惰な学生時代を過ごし、「大学卒」に見合った力量をつけていない若者が多い気がする。庶民的な大学を出て「大学卒」らしい知識や技能を持たずにハローワーク的な仕事につく。そうした若者は、「若年・非大学卒」より身につけているものが少ないだけに、悲惨な生涯が浮かんでくる。著者にはないものねだりになるが、大学間格差の問題にも、社会学的な分析の目を向けて欲しいと思った。(了)

IV 会員談話室



KARUISAWA TODAY

みなさま：こんにちは

軽井沢は過ごしやすい季節となりました。まだ朝晩は若干涼しい日もありますが、新緑～初夏へと季節の移ろいを感じる時です。近所の公園ではツツジがきれいに咲いていましたので少し雲がかかっていましたが浅間山をバックに撮ってみました。

細江久美子 (在軽井沢)

自己紹介（到着順）

○衛藤秀三郎（[ユリアナ幼稚園](#)専務理事）

河村真理子様のご紹介により 3 月から参加させていただいている衛藤秀三郎と申します。

幼児教育の関係では、北海道旭川市にあるユリアナ幼稚園という小さな幼稚園の専務理事兼理事長代行をしております。

私は、銀行そして事業会社と都合 40 年あまりビジネスの世界で過ごして参りましたが、あるご縁で 10 年ほど前から上記幼稚園の運営に関与しています。旭川市は北海道第二の都会とはいえ、少子高齢化が進み、人口も減少傾向です。保育園の数は増えていますが、幼稚園は定員に満たないところがほとんどで、教師の採用にも苦労しており、2015 年からの新制度への対応のかたわら、集約化や廃園が進みつつあります。一方で、インバウンドの外国人観光客が増え、市内ではアジア系また欧米の観光客も多く見受けられようになりました。

私自身、高校時代から米国に留学し、また仕事の関係で 14 年間に欧米やアジアで過ごしたこともあって、このグローバル化が進む日本で将来を担う子供たちには、自立した国際人として育ててほしいという思いがあり、この幼稚園でもそのような面で少しでも貢献できたらと考えています。ただ、経験上、特に幼児期は、英語などの表面的な外国関係の教育ではなく、人間として或いは日本人として健康で伸び伸びとした子供に育つための教育が大事だと考えており、ヒップホップダンスで楽しく身体を動かしたり、書道に加えお茶のお点前などの日本的な文化の新しい試みを導入しつつあります。今後とも、園長先生や他の先生方と話し合いを続けつつ保育を進めていくつもりですが、この会でみなさんの取り組みやお考えなど、学ばせていただけたらありがたく思っております。どうぞ、よろしく申し上げます。

○孫 静霞（[上海杉達学院](#)：中国）

皆さま、初めまして。孫 静霞と申します。この度は入会させて頂き、とても嬉しく思います。ありがとうございます。

さて、私は中国の上海杉達学院という大学で教職に就いております。本校は中国の発展を物語る浦東新区の中心部から地下鉄で 30 分、上海市郊外にありますが、とても交通の便がいいところです。日本語担当の大学教員となり、かれこれ 20 数年。長い教員生活で育まれてきた職業的性格でしょうか。人と人の関わり深さを様々な教育現場で拝見させて頂き、各々の教育現場を肌で感じ、そしてプレスクール教育に関心を覚えました。

日本に留学していた頃、日本の学校現場を幾度か拝見させて頂きました。日本と中国、両国の教育制度は大差なく感じますが、しかし、「社会性」や「自立性」に於けるコンセプトの僅かな違いが、印象に残っております。

教育のお話をすると、そして子ども達といえれば切り離せない中国の政策。一人っ子政策は皆さまもご存知かと思いますが、その政策は 2015 年には終わり、第 2 子（二人っ子）政策が導入されました。これにより全国の夫婦に 2 人までの子どもを持つことが認められるようになり、現在、幼児人口がますます増加傾向にあります。それに伴い、幼児教育の取り組み方も考えていかななくてはなりません。夫婦共働きや孫に対する祖父母の関わり方など様々な事情が絡んでいる中国。そして、その教育の取り組みに保護者の関心は日々高まりを見せております。

そのような現状を目の当たりにし、本学会諸先輩方のご指導を賜りながら、今後より深くその教育に携わっていきたく願っております。幼児教育に於ける専門的な研究はまだこれからですが、教育者のひとりとして、多くの教育現場を知り、微力ながらお役に立ちたいと考えております。

宜しく願い申し上げます。

○大高志芳（[福島学院大学](#)非常勤講師）

福島県にある福島学院大学にて非常勤講師として教員養成・保育士養成に携わっております。主に幼稚園教諭免許、保育士免許に関わる科目、実習巡回などを担当しております。また、通信教育

部の非常勤としても夏休みや冬休みにスクーリングなどをしております。

私も子供が2人おりますので、子供を産み育てることの大変さと難しさを日々実感しながら奮闘しているところです。そして子供の教育にあたることへの素晴らしさ、特に保育士は子供が初めて出会う親以外の大人であること、子供への多大な影響を与える存在であることなどをいつも深く考えるようにしております。

私が出産をして、専任講師から非常勤になり細々と仕事を続けている中で、息子が待機児童になったことや託児所確保の大変さ、0歳からのお教室、習い事、お受験事情など目まぐるしく変化している子育ての状況を私の経験からお伝えしていけたらと思っております。何より私が学生時代に深谷先生からいつも新しい風をいただいたように学生の皆さんと未来を担う子どもたちの幸せと一緒に考え、エネルギーを与えられるように子ども支援学会で色々なことを学んでいきたいと思っております。今後ともどうぞ宜しくお願いいたします。

○清水陽子（九州産業大学教授）

現在、福岡市東区にある九州産業大学で保育者養成に携わっています。本学は2020年に創立60周年を迎える総合大学で、芸術領域、理系領域、文系領域の順番で改組し最後に誕生したのが、私が所属する人間科学部子ども教育学科です。

2018年4月に開設した子ども教育学科は、保育士資格、幼稚園教諭一種免許状にプラスして、特別支援教諭一種免許状が取得できる全国でも数少ない学科です。この学科の開設にあたって、私が構想したことは、子どもと保護者、保育者が共に育ちあう共生の時代にふさわしい保育者の養成です。「人を支える人になる」という学部の理想を、乳幼児保育の視点から実現したいと考えています。

学科の附属施設として、「子育て支援室」があります。地域の子育て支援と共に、学生が授業等で子育て支援の実践を学べるようにしています。学科が開設したころ、かつて大学院でお世話になった恩師から、日本子ども支援学会のことを教えていただきました。本学会に入会させていただいたことは、これから広い視野で乳幼児教育を考える良い機会であると喜んでおります。どうぞ、よろしくをお願いいたします。

○岡本弘子（目白大学専任講師）

目白大学で、保育者養成をしております。こちらの学会には、幼児教育研究家の斎藤二三子先生にご紹介いただき、入会させていただきました。専門は「保育、幼児教育、比較教育」です。元幼稚園教諭、元青年海外協力隊員、元青年海外協力隊事務局職員です。国際協力にたずさわる中で、幼児教育の重要性必要性に改めて気づき、保育者養成校に勤務するようになりました。

研究テーマは、青年海外協力隊員として赴任したスリランカの就学前教育です。また、近年日本国内に、外国につながる子どもが増え、保育・教育現場が混乱している様を見たり、支援を依頼されたりしたことをきっかけに、多文化共生保育・教育にも関心をもつようになりました。

学生に「学生の中に様々なことに挑戦し、体験しましょう。好き嫌い、得意不得意は、体験した後に考えることを勧めます」と伝えているので、その環境・機会作りのため、奮闘する日々です。本学会で、どのようなことに出会えるか、楽しみにしております。ご指導いただけますよう、どうぞよろしくお願い致します。

中山道歩記

米谷茂則（明治大学講師）

思いついて、64歳も終わりの頃、2016年3月から中山道歩きを始めた。第1回は東京日本橋から大宮までの30kmを、日帰りにて歩いた。2回目からは一泊2日、途中からは二泊3日として50km進むのを目標に、年に3回から4回、冬場に歩いた。8回目が2018年3月にて、十二兼から大湫（おおくた）宿までであり、ここまでを「中山道歩記」として、「KODOMODA プラザ 子ども問題勉強会ニューズレター」に掲載していただいた。以下、その続きを記していきたい。

その9 (JR中央西線釜戸駅から樽見鉄道十九条駅迄)

9回目は、2018年11月20日から22日までの二泊三日で、前回の終着であるJR中央西線釜戸駅から、岐阜駅の少し先となる樽見鉄道十九条駅をめざした。約68kmである。

1日目の20日は、新幹線にて名古屋へ、乗り換えて中央本線にて9時30分に釜戸駅に着いた。そこから国道19号線を経て県道383号線、さらに県道352号線から旧中山道へと歩みを進めて細久手宿に入った。そこまではよかったのだが、地図上では左折して御嵩宿に進まなければならないところを、左折地点が分からず、そのまま行くと今回の歩き初めの釜戸駅に出てしまうという看板を見つけ、行き過ぎてしまったことに気づいた。5kmほど戻ってようやく道を確認した。行きと戻りで10kmと2時間以上のロスであった。途中、延々たる砂利道を歩き御嵩に出ると暗くなっていた。予約したホテルに、予定より遅れる旨を電話すると、本日はホテル内の食事処は休業ということであったので、歩きながら食事できそうなところを見つけて、立ち寄った。元気を取り戻し、懐中電灯を照らしながら国道21号線沿いを進み、可児まで行き、夜9時半ころにホテルに着いた。

2日目は、前日の疲れも何のその、朝8時にホテルを出発した。前日からの国道21号線に沿って木曾川を渡り、美濃加茂市へと入った。美濃加茂市の或るところでは、「ダンシングヒーロー」の曲ののって盆踊りをするので有名である。3月なのに暑い日差しの中を、さらに21号線を進み鶴沼宿に入り、各務原にて午後6時半過ぎにホテルへと着いた。この日は道に迷わず、30km歩いた。

3日目は、戻りの都合から、朝7時半過ぎにホテルを出発した。岐阜市、岐南町と進み長良川に架かる穂積大橋を渡り、瑞穂市へと入った。風が強くなってきた中を樽見鉄道十九条駅に着いた。宿としては美江寺(みえじ)であり、樽見鉄道には美江寺駅もあるのだが、今回と次回の進み方の都合から一駅離れた十九条駅までとした。そこからタクシーにて大垣に行き、大垣から名古屋、名古屋から新幹線にて戻ってきた。

その10 (樽見鉄道十九条駅から東海道本線篠原駅まで)

10回目は、2018年12月25日から27日までの二泊三日で、前回の終着である樽見鉄道十九条駅から東海道本線篠原駅をめざした。約65kmである。

1日目の25日は朝5時半過ぎの列車にて出発し、船橋乗り換えにて快速で東京へと向かった。途中でこの日の歩き行程の地図を、家の机に忘れたことに気が付いたが、戻るといってもいかなかった。東京から新幹線にて名古屋へ、そこから東海道本線にて大垣へ、さらに樽見鉄道十九条駅に着いたのが、9時半前であった。地図を忘れたので、私の記憶と妻のスマホ上の地図を頼りにして東海道本線関ヶ原駅をめざした。十九条駅から歩き始めると果樹園が多く、それは富有柿であり、瑞穂市が発祥の地であるという説明があった。一級河川揖斐川を渡ると、バラのまち神戸町(ごうど)を通り赤坂宿に着いた。赤坂宿のシンボルとなっている火の見櫓があり、また、石炭や大理石の積み出し港として賑わったという赤坂港跡も見ることができた。そこから県道216号を進むと昼飯町(ひるい)を通った。ところが町名の通りにお昼を食べられそうなお店はなく、和菓子屋さんで腹ごしらえをした。しばらく進むと垂井宿である。そこからは国道21号線に沿って歩き、関ヶ原へとたどり着いた。ところで、関ヶ原駅周辺には適切なホテルはなく、東海道本線にて大垣へと戻り、ホテルに入った。

2日目はホテルを早くに出て7時40分頃に関ヶ原駅に行き、「古戦場のまち関ヶ原」というずいぶん長い案内板を見ながら今須宿へと入った。今須宿は旧中山道を石畳の道にしている本陣跡や、脇本陣跡などを見やりながら歩みを進めた。しばらく進むと岐阜県から滋賀県に入った。これより近江路という案内があり、主に国道21号線に沿ったが、歩道部分がなく歩けないところもあり、その所は脇道を歩いた。柏原から醒ヶ井への途中にて昼食を済ませて、さらに番場宿へと歩いた。番場宿から鳥居本宿への道は途中が峠になっている。峠に入る頃には午後3時を少し回り、うす暗く雨模様になってきた。前回1日目の峠越えのように道に迷っても困るので、峠道を回避してスマホ頼りにJR鳥居本駅をめざした。雨の中何とか鳥居本駅をみつけ、さらに進んで雨の中を懐中電灯で照らしながら細い道を経て、予約してあったホテルにたどり着いた。

3日目は7時半頃にホテルを出て、すぐ国道8号線を歩き始めた。しばらく歩くと高宮宿であり、そこから愛知川宿を経て、近江八幡市へと入った。安土城跡の案内などが目についた。さらに歩くと「老蘇の森」、「老蘇こども園」、「老蘇小学校」となかなか読めない地名の場所を通った。あるところにて「おいそ」と読むことが分かった。そこから少しで武佐宿である。時刻を見計らって、国道8号から篠原駅に向かう西横関信号にてタクシーを呼ぼうとしたが、近江八幡からでも相当の時間がかかるということで来てもらえなかった。致し方なく、駅まで歩くことにしたが、30分以上もかかった。篠原駅から京都

に向かい、ドラマ「相棒」に出てきたというお店にてお茶を飲み、新幹線にて戻ってきた。

その 11 (篠原駅から京都三条大橋まで)

11 回目は、2019 年 3 月 18 日から 20 日までの二泊三日で、前回の終着である東海道本線篠原駅から最終目的地である京都三条大橋をめざした。約 46 km である。9 回と 10 回を 60 km 以上も歩いたというのは、最終回となる今回の二泊三日の 2 日目に三条大橋に着いて、3 日目は京都にてゆっくりしたいという妻からの提案で、そのようにしたのであった。

1 日目の 18 日は、まず京都に行き、そこから東海道本線にて近江八幡へと戻り、そこからタクシーにて前回の終着とした国道 8 号の西横関信号へと着いた。そこからは瀬田川を目指して歩き始めた。守山宿を経て野洲市に入り野洲川をアーチ橋にて渡り、草津をめざした。草津では四日市方面から鈴鹿峠を超えてきた東海道と合流する。道の案内も「旧中山道」から「東海道」へと変わっている。南草津からは、国道 1 号線を歩いた。瀬田川まで来たところで国道を降りて、タクシーにてホテルに向かった。ホテルは禁煙室を予約していたのであるが、案内された部屋はあまりにもたばこ臭がするので、元からの禁煙室に変えてもらおうと、琵琶湖と湖面に映る夜景がきれいに見える部屋であった。

2 日目は、いよいよ最終回の最終日である。タクシーにて瀬田の「唐橋東詰」まで行ってもらい、1 日目からの続きとして、瀬田の唐橋を渡った。大津市に入り石山、膳所(ぜぜ)、そして東海道本線大津駅付近から再び国道 1 号線に入り、少し先からは旧東海道を歩いた。京都薬科大学のそばを通り、「天智天皇山科陵」の看板を見ながら進むと坂道になっていて、最後の難関である。京に向かうのに、本当にこんな急で細い道を上ったのかというほどの道を延々と歩いた。迷いそうな場所には、「←旧東海道」などと案内板があり、確認しながらであった。少し下り気味になったところにも、「旧東海道」の小さい案内板があり安心した。さらに進んで三条通りに出た。そこからは直進し地下鉄東山駅を経て、午後 2 時過ぎにゴールの三条大橋にたどり着いた。

橋の近くは、外国からの旅行者と思える多くの人たちがいた。鴨川べりに降りてみると、外国からの若い女性が少なくない人数であり、ある女性が皮をむかないままのリンゴを食べていたのが印象深かった。

三条大橋のすぐ近くには、先斗町歌舞練場がある。私の連想は、いつかは「都をどり」を見たい、ということである。ホテルに向かうために、バスにて京都駅に向かった。バス停にて降りると、和服の若い女性を何人も目にした。時節柄からして大学の卒業式の帰りかと思った。しかし妻が、袴を着けていないので違うと言う。宿題になった。ホテルは気に入っているグランヴィア京都を予約してあった。夕食はウナギ屋に出向いた。

3 日目は朝方ゆっくりして、午前中に妻は東本願寺に行き、私は大きな通りを散歩した。しばらく歩いていると、和服のレンタル屋があり、普通の服装の若い女性の二人連れが入っていき、少しすると別の和服の女性が出てきた。「なるほど、和服で京都の街を歩くのが流行っているのか」と思った。お昼は湯豆腐を食べ、伊勢丹にてお土産を買って、新幹線にて帰ってきた。

2016 年 3 月から 2019 年 3 月迄、足掛け 4 年がかりの中山道 69 次の歩きであった。旧中山道と現在の中山道だけで京にたどり着いたのではないが、中山道だけでは 533 km である。何回か道に迷ったということもあり、それ以上に 20 km ほどは歩いている。年月と交通費など経費のかかった、思いつきの中山道歩きであった。(了)

句会むさしの

○無愛想の造り酒屋や夏つばめ

安田 勝彦

先日、奥の細道の続きの旅を一の関から山形尾花沢までおこないました。その途中立ち寄った造り酒屋のご主人の無愛想さと夏つばめの切れのいい飛び方を眺めて一句となりました。古い造り酒屋、飛び立つつばめ 田舎の街並みがまだありました。

○万緑や 五月の里に ふさわしき

市原 潤

草田男の「万緑のなかや吾子の歯はえそむる」は、一面の緑のなかの白い歯ですが、濃淡明暗多様な緑こそ五月の万緑の緑、の意です。

○読み聞かせの 祖母の舟漕ぐ 夜長かな

森永 徳一

我が家の母や祖母が、昼間の仕事の疲れと、本の大好きな孫の姿を読んだ句です。

○春なのに きついくしゃみが またひとつ

上島 博

若い頃から悩み続けた花粉症が、ここ十年ほど出ていなかった。年のせいかなと思っていたが、よく考えると貧血の病気の時は免疫力が下がっていたし、骨髄移植後にはステロイドを服用して免疫抑制していたからではないか。今年のアキコ花粉の時期、久しぶりにあの感覚が蘇った。続くくしゃみはつらいけれど、私にもまだ病気とたたかう力が残っていたのだと嬉しくもあった。昔カラオケに行って、柏原芳恵の「春なのに」を句のような替え歌にしていたことを思い出した。

○古アルバム 指さし我と 初夏の郷(さと)

三輪ひろ美

帰省して、父の実家(本家)に集まって皆で古いアルバムを見ていた時、初めて会った甥っ子が、今は亡き叔父の子ども姿に「あ、これボクだよ!」と、皆で大笑い。躍動感のある子どもの声でした。

みなさまの「句会むさしの」へのご投句をお待ちしております
Kazukofukaya@nifty.com(ニューズレター編集部)

編集後記 (ニューズレター委員会)

「風の便り」2,019年6月号をお届け致します。会員が120人を超えることになって、掲載させていただく自己紹介は1号5.6人で、一回りに7、8年もかかることとなります。ご希望の方は、どうぞ500字内外の自己紹介のお原稿をお送り下さい。できるだけ到着順に掲載させていただきます。また、「句会むさしの」へのご投句もお待ちしております。夏休みも視野に入ってきました。猛暑との予想です。どうぞご自愛下さい。

<編集委員>

深谷和子(長)・中園孝信・湯浅俊夫・上島博・大高志芳・清文枝・吉野真弓・土田雄一・三枝恵子

<風の便り 2019年6月号目次>

	今月の富士	今月の詩	中園孝信	ゆあさとしお
I	実践報告	「保護司」の日々	市原潤	
II	子どもの心Q&A		深谷和子	
III	新書版に見る「子ども問題」		深谷昌志	
IV	会員談話室			
	KARUISAWA TODAY	細江久美子		
	会員自己紹介	衛藤秀三郎 孫静霞 大高志芳 清水陽子 岡本弘子		
	中山道歩記	米谷茂則		
	句会むさしの	安田勝彦 市原潤 森永徳一 上島博 三輪ひろ美		
	編集後記(深谷和子)			

